



Photo by T.Happy

■ 師走に (事務局長 田代 周)

いよいよ今年も最後となりました。一年があつという間に過ぎてしまいます。歳と共に時のたつのが早く感じるようになりました。10歳の子供にしてみれば一年はその人生の1/10、80歳では1/80。どんどん短く感じるようになってしまうものだと思います。正月に今年はこのをしようと願掛けをしても一年経ってしまうと結局何もできなかった、ということを経年繰り返しています。

何もできなかったことをコロナのせいにはいけないでしょうが、あとからあとから形を変えて人類に挑戦してきて、今年も終息は見えませんでした。この粘り強さを人類は学ぶべきか。

カタールで開催中のFIFAワールドカップで日本チームは世界の強豪を相手に見事予選を突破しました。先制されながらも粘りの逆転。

目標のベスト8どころか優勝も狙える。年末の夢を広げてくれました。強い相手に対していつまでも挑戦し続けることの大切さを教えてくれました。来年は更に短くなっていきますが、夢は大きく広げたいと思います。

写真は浜松町の世界貿易センタービル展望階からの景色です。館内のクリスマスイルミネーションも映り年の瀬を漂わせています。しかしこのビルは再開発のため、現在は解体中で、2029年に新たな高層ビルに生まれ変わる予定です。その時にまた同じ景色を見ることができでしょう。現在の解体工事の様子は下記 URL 参照

https://www.kajima.co.jp/tech/wtc_kaitai/index.html

■ 活動報告「11月度 Online 会合」

11月22日 (火)に「読映会2」として、かつてニッパーズ銀座があ



った新橋について歴史を学びました。ビクターが手放したビルのその後の変遷を感じました。

<http://jvc-senior.com/20221122online.pdf> 参照

■ COP27とCANの化石賞

11月6日からエジプトにおいてCOP27(国連気候変動枠組条約第27回締約国会議)が開催されました。前回、英国グラスゴーでのCOP26では脱石炭が大きく取り上げられましたが、日本はその動きに消極的であるとして、環境団体CAN(Climate Action Network)は日本に対して「化石賞」を授与しました。

そしてまた、COP27においても同様となりました。

「既存の火力発電をゼロエミッション化…」や「石炭にアンモニアを混ぜて…」などと言った瞬間に、石炭火力発電の延命を図っている、と捉えての授与です。ロシア・ウクライナの戦争でエネルギー問題が大きく浮上して、欧州でも石炭の利用やむなしの動きがある中、随分とこだわった行動と思えてなりません。

最近の環境保護団体の中には一部過激化して、美術品を棄損するような行動が見られます。そのような団体とは一線を画したウイットに富んだ化石賞授与であってほしいものです。授与された側もそんなに気にすることではないのかもしれませんが。

■ 「安いニッポン脱却への意識改革を」

前月号の円安2の最後の部分で「大手企業の社内留保が増えている」と述べましたが、11月26日の産経新聞で「安いニッポン脱却へ意識改革」という記事があったので紹介します。

記事の一部および、図は次の URL を参照ください。

<https://www.sankei.com/article/20221126-YB3W564UHNONXEPG4OJXKK27TU/>

結論では歴史的な物価高騰の中で来春闘を契機に人・社会の意識改革を求めています。以下要約

- ・ 大手企業の9月中間決算では過去最高水準を記録した。通期でも最高利益を更新する見込み。コロナ回復の兆しで鉄道・空輸などの非製造業が牽引している。製造業でも円安が輸出を伸ばし、海外事業も円換算で収益拡大。原材料のコスト高を吸収した企業が多い。
- ・ 一方家計は物価上昇で厳しさを増している。賃金はここ30年ほとんど上がっていないが、企業の内部留保は増大、株主配当金も増加している。経営者の意識は従業員よりも株主の方に向いている。
- ・ 連合は来春闘で5%程度の賃上げを求める方針。これは平成7年以来の高い目標である。経営側も賃上げの必要性を認めているが物価上昇分を補うほどの賃上げは容易ではない。
- ・ バブル崩壊後、「物価も賃金も上がらない」という考えが定着してしまった。企業のコスダウンへの取り組みは大切であるが、コスト上昇分を従来と変わらず中小企業へのしわ寄せや、従業員の賃金を抑制しているばかりでは経済の好循環は生まれにくい。
- ・ 大企業は企業努力を超えるコストアップ分を価格転嫁する方向に動いているが、中小企業ではなかなかそれが進まない。全ての階層において「**正当な価値を正当な価格に反映できる状況**」を創り出さない限り賃金上昇は難しい。安いニッポンから脱却するための意識改革が必要。来春闘をその契機としてほしい。

■ 皆既月食と惑星食 11月8日(火)

月食と惑星食が重なるのは日本では442年ぶりとのこと。11月8日の夜空を見上げた方も多かったことと思います。今回は月と天王星の同時食でした。

1580年は月と土星だったとのこと。今より夜空はくっきりと見えたはずで、当時の人もその天体ショーを眺めていたのではないのでしょうか。

次回は322年後でまた月と土星となるようですが、その時の夜空はどのように見えるのでしょうか。

「ダンジョンスケール」というものがあります。月食の時の月面の色・明るさで地球大気の状態を診断がなされるとのこと。大気が汚染されていると月面が暗く見え、澄んでいけば明るく周辺は黄色味を帯びたように見えるそうです。

右上の写真は(栃木)宮田宏美さんからの提供です。栃木の空はかなり澄んでいましたよね。



写真は 20:30 ごろから2分間隔で撮った天王星の動き。首都圏では20:40頃に月の影に入って40分ほどで顔を出した。<https://youtu.be/tAA8xQUzXuc> も参照

■ 事務局から

1) 11月18日(金)鎌倉円覚寺で座禅の修行体験をしてきました。<http://jvc-senior.com/page327.html> 参照
指導の僧侶から最初に次の話がありました。「心を無にするのは難しい。座禅中は自分の息を数えるように。これを **数息観**(すそくかん)という。」

大きく息を吸ってから肺の中の空気をすべて出す。これを繰り返してその回数をひたすら数え続けることにより心の散乱を停止する観法であるとのこと。



確かに数を数えているとその他のことを考える暇がなく座禅に集中できた様でした。足を組むのがつらい様であれば椅子に座ってでもよし、深呼吸しながらその回数を数えていけば、長い待ち時間も苦にならないでしょう。皆様もお試ください。

2) 11月21日(月)横浜にて「V9.13 元気かい」が開催され、元ビクター社員に現会社役員を加え総勢120名ほどが一堂に会しました。内、シニアクラブ会員は32名でした。当クラブ会員の中で寿会の地区支部長を担う人も複数いて地区のOB会の要となっています。コロナ第8波の兆しもありましたが、3年ぶりの顔合わせでお互い友好を深めることができました。

3) 第210回臨時国会が開催中です。7月の参院選で当選した「村田きょうこ」議員は早速、委員会での質問に立っています。その活躍ぶりの一端をご覧ください。 <https://youtu.be/zBOEPLDZDAc>

4) 定期総会は来年2月を予定しています。今年2月に計画していた総会日程にあわせての国立演芸場観劇はコロナのために上演中止となっており、総会も書面審議となってしまいました。来年は是非顔を会わせて実施したいと考えています。

具体的な内容は正月早々にご案内します。

事務局 田代 周